

子孫繁昌記

9
1301





實語教童子教證註

振鷺亭著

全一冊

古狀揃證註

高井蘭山著

全一冊

御成敗式目證註

同上

全一冊

1304

右三書ハ漢百年前翁が經典條師不擬して
教ふ振鷺亭二先生教文の留小條料と加へ
目又字の平しにせしめんが爲小字と加へ
て讀み出し傍に條名と附したまは意圖と
いふも師と符するて毎一冊易く自ら寫し傳
の基と爲るべし

秘傳重寶記

ぬ西指

折本

け書ハ病大毒虫を外平生にほおくべき
ををさぬ業と記せ又衣後のおまの
油ぬこの法或ハ途中翁の意圖と救ふ
ぬぬとせしむるに記せ古板磨滅せしぬ
を此増補再梓してあり世ふは士農工
商ともなる中一と實小冊用重寶有量
の珍書といふべし

子孫繁昌記序

人生や吾乳氏

吾能く味ふるを知る

是智れ初也生長

是智れ初也生長

二道よ別るあるなり

善悪を知る何り

由せ古き古人の書

由せ古き古人の書



により又善友より由
 たりけ書よく童
 蒙と導に子と孫
 如業内いろははたよ
 よあふ木学あし道
 小玉る実よ子孫繁
 昌記といふ屋一辛廿
 夏月題於聽松軒

宋丞相文天祥語

明治四十一年一月廿五日
 中村健 氏寄贈

忠



上事於君
 下交於友
 内外一誠
 終能長久

忠

一

孝

敬父如天
敬母如地
汝之子孫
亦復如是

子者いさゝけの五音

此は後の仰る所のいさゝけの五音

身んどもあつてはらへんすか

使ふはあつたんとてはらへんすか

こやうゆつて用とてはらへんすか

その子とてはらへんすか

せがうとされてはらへんすか

いふもいふことばつたはらへんすか

人と申すもはらへんすか

大にといふ女子よきれはらへんすか

男女のけがれはらへんすか

毒永庚子季夏何某の

子者一あつて 堵庵云

守

傳書の上とて見とてやまひて
下き身とていひわらさう

後といひの志実あつて
おとせおつぞりかすまけ

わらさむといひの實事不意悲
幼きころのころり

石はかり成長のまへん
子ども中へまきけはる

子島伝拜

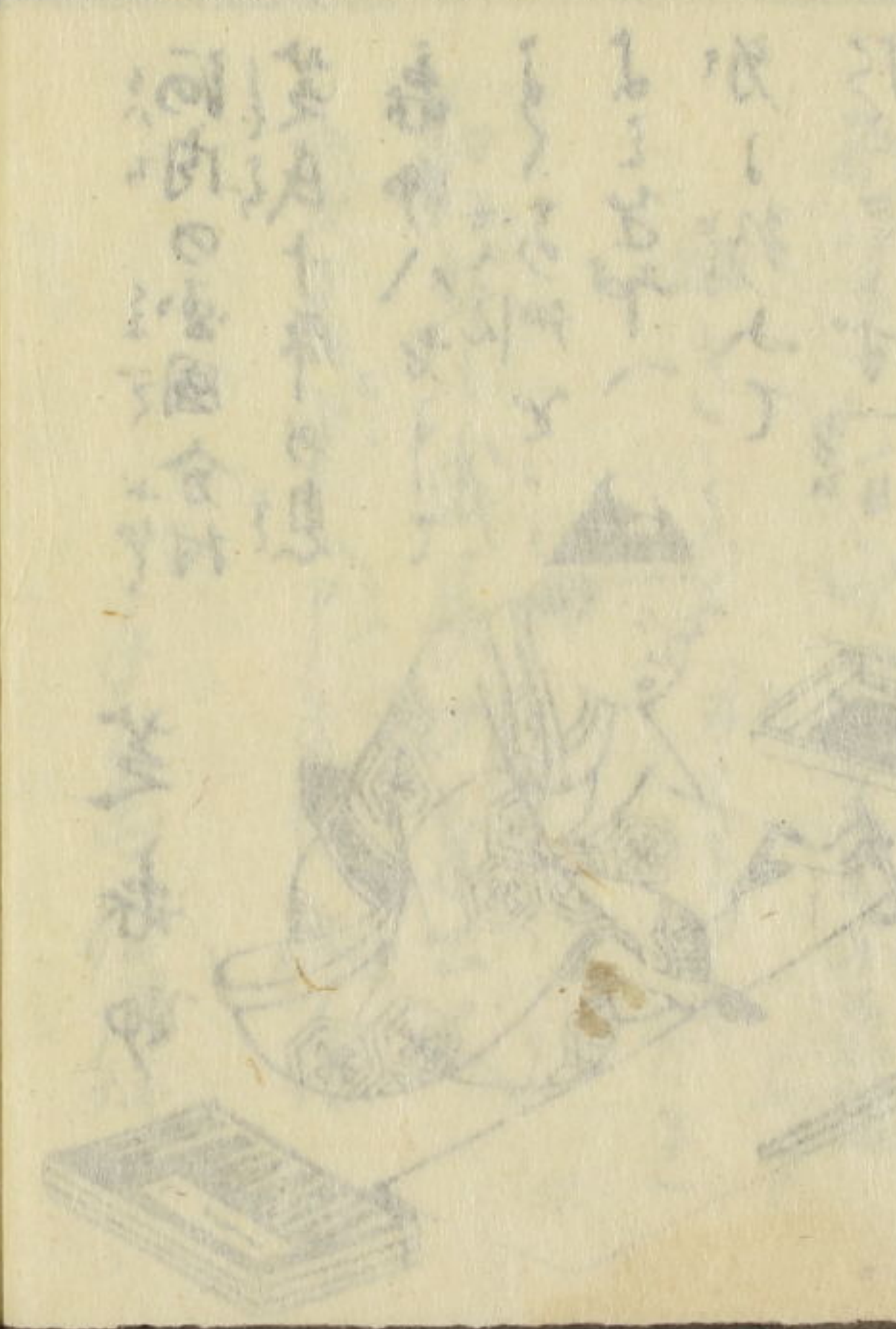
芝無聊

河内の玉國分村
芝氏十年の息
忠聊八女して
よくあつと
かゝりあて
おとせおつぞり
自かゝりあて
て是とすれ
具云曰



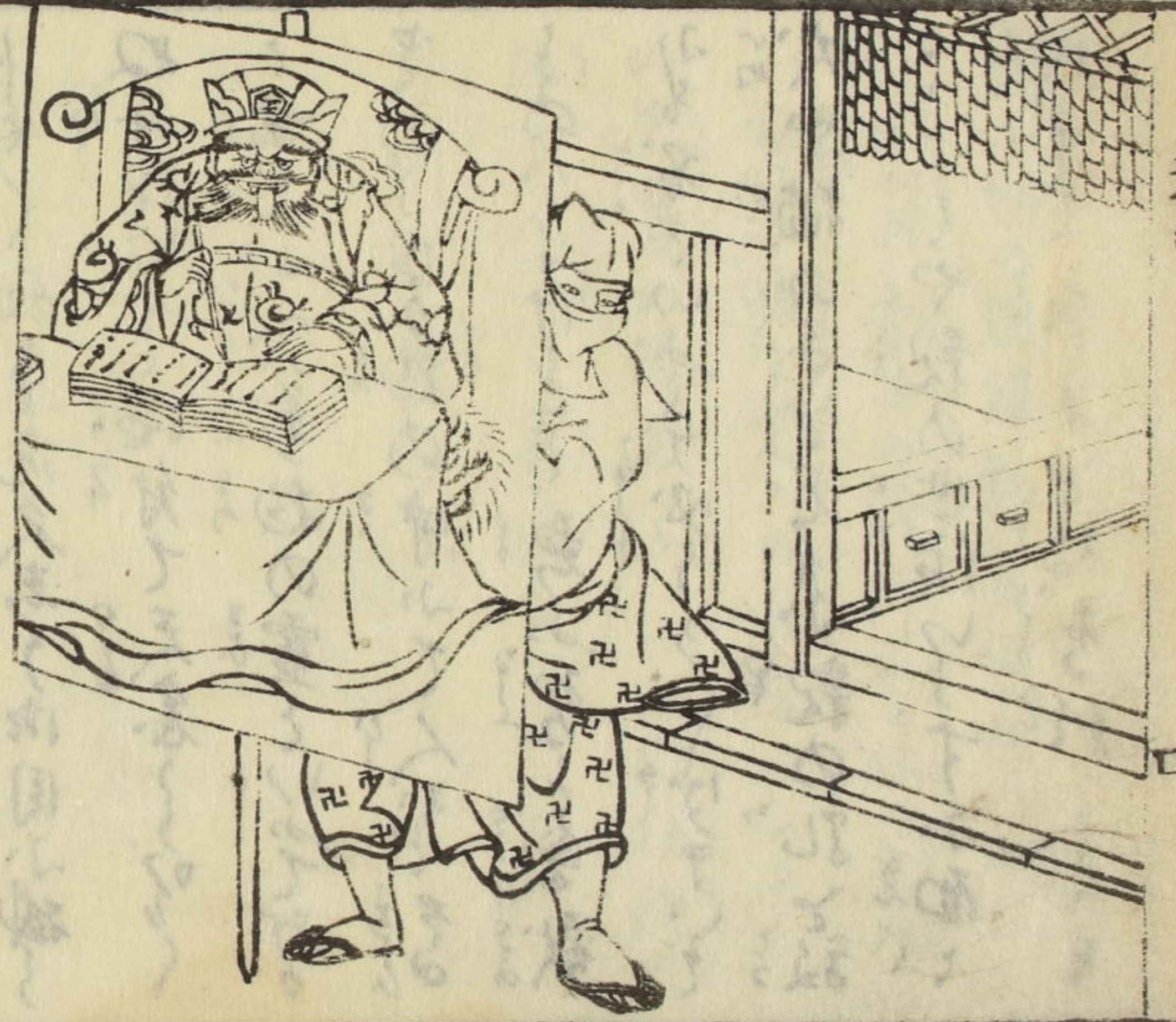
くし生れあかかやこりくのな
なりよまれは天うらととるこ
ふ者よまれは神佛のはらぬるこ
なりよせのハ犬猫もかきし

凡一切の教誨 幼善徳養の介は
 八景の孝子の徳神聖仏の徳は
 小舎り 誠子先入の言まくる
 の先賢の徳あふべし 幼稚の
 比より 下く 若道に かれ 志し
 あ洲む 蓋わり



まきえ ともあまひ
 教訓 弄ノ式丁目

始磨まんく ち帳面消を合息
 ドやく 幼童虎久あう 内園小掛
 ぬき 抱いせ 塩付て 天意う 吹く
 と 嚙ぞよ 人の物 物の霊といわて あり
 やわりの 物の申ふて 人が ぞる
 その いたけ こと 悪あおむと 會歎
 小も 方といふ 中 必う けき
 大や 猫の子と 見え 小親の 乳と 教
 我 才で 家 持を 取く ても



同じもの。粟並の故ハ親の世話ハ
どとましくに親を孝ふ人の子ハ
産て。親の徳を放まては良
假初で人おほたし。ぬ喰ふも
飲もきりも成りも病も起りも
瘡瘡も。一ハハハ及び。さ
不肖。異い不知。親の苦勞を
君ハ。將しおかん。入粟や六粟で親
に捨てて。る。る。る。を。含。も。ま。あ
するもの。とや。あ。い。ま。り。だ。ん。く
我身で。家。身。と。持。ま。で。の。親。れ。苦

昔海も山も。人びら。と。大
君と。知。ら。ざ。り。の。ハ。さ。ら。人。で。有
か。い。金。銭。も。も。り。の。場。を。に。平
おも。小。づ。の。情。い。為。で。親。の。君
と。し。知。つ。て。及。節。の。孝。を。親。と
ま。の。及。も。と。い。ふ。鳩。小。三。枝。の。れ。わ
と。て。粟。の。田。れ。身。と。あ。れ。ど。三。枝
さ。ら。て。親。を。お。も。う。る。孝。を。お。も。う。る
と。し。必。親。の。恩。と。忘。ま。て。る。孝。不
お。も。う。ま。い。と。知。り。の。附。ハ。孝。れ。と。て
お。も。う。ま。い。や。う。も。か。い。唯。親。の。作。と

寄うと流くは後娘の虚云つ
 のねがまの存りねほくの幼童の
 ハ穴市をどしてはよもわきど必
 立よりてるるも思ひぞ童のこれ
 の痕ハせ長ふ成ても除ふくいり
 さいとさ曲と樹ハ大木小成ても
 曲で指穴一修小將奕ある物
 契がかりどてハ何ふたももあれ
 ぬ強いのどやね又ねべきハ喧
 嘩は海町人百姓の喧嘩は海を
 何ふでも勝る員トや孫やと人

ぶりのハ喧嘩ハ業ねも女は通くバ
 けて通く。出何れも員ておろそ
 務ぶりの務とてんを養ふね又若こ
 用んすまハ性我は性我わやまらハ
 せふとあててるるのハいりもわい
 必死なれば必死事とせどはあぐ
 ともはくハ必大らゆるぐんあゆか
 わらて性我あより性我さたり感ハ
 人小けあや喧嘩の出るもるわ
 事。喧嘩は海性我はどり行親
 の言は痛教の心と若る并一のあ

夕の霞が童子の母我るハ一生病
 けもわりの用かやひばあぬるや
 扱又人小云きぬや人小隠て事
 知ハ必くせぬほどや隠す事や
 いまあすお六娘のないのどや
 ようねとあ人のこも人小隠て
 人小隠ても我ん人小隠されぬ
 能ういん人小知り。思ひの思と知る。
 是と比初の天知くも始摩大まも
 け。又孝後の後もい明かりのや
 思ひのあぬぞや合点く



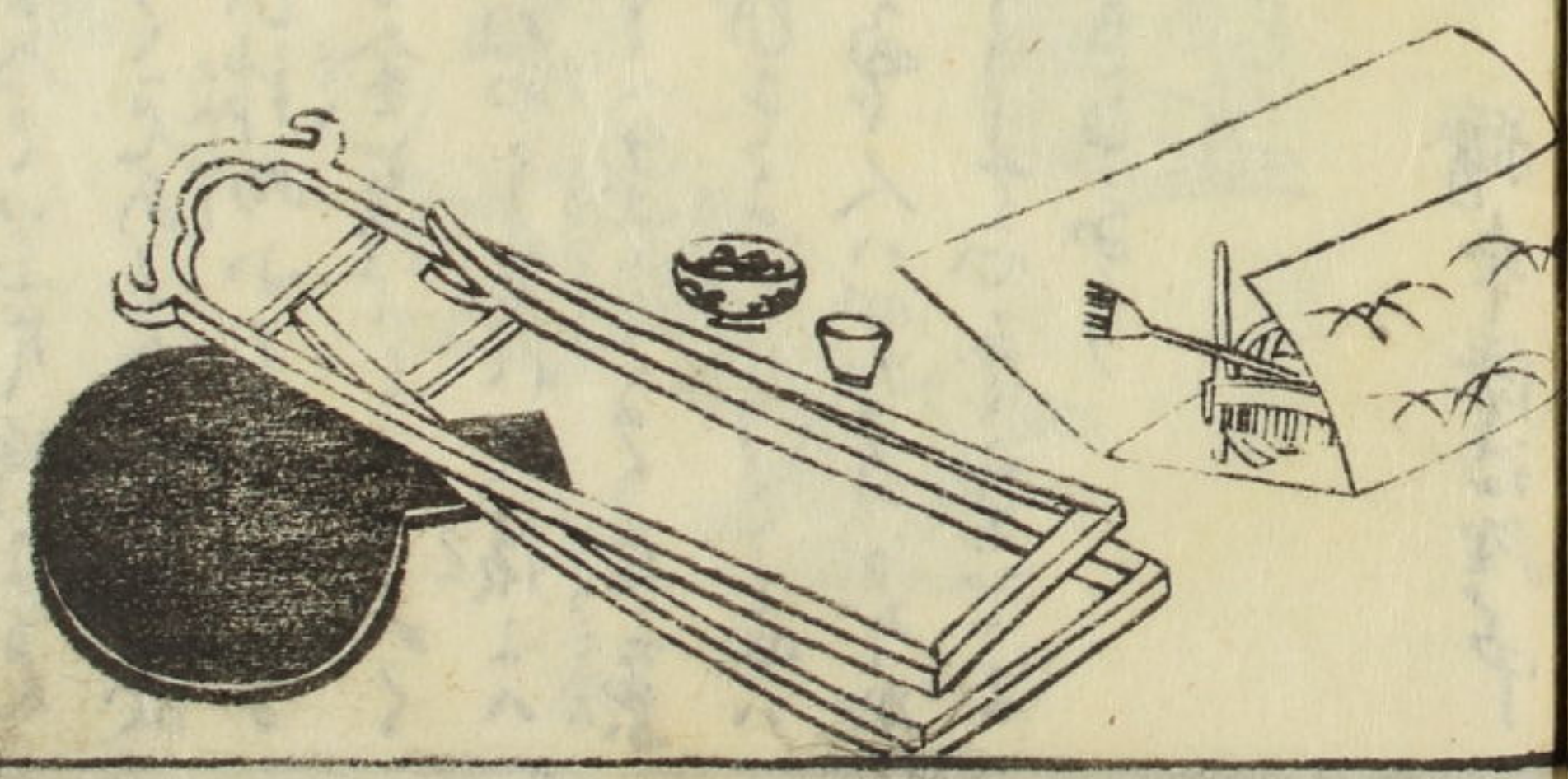
花丸
 咽れ
 野又
 さくそ
 夢た
 嬢か
 此
 度
 度
 何
 何

親く歳く花相似衆く年く人石
 花根くぬれ九中果は後八年くおと
 人の花くぬれ中果は後八年くおと
 ろろく世のとうき老少不定の想ハ
 うきハ親くあて後一ころり我も人か
 小ハわらぬと後くおは父母はよ
 うきハ三糸の骨一けいより天は玉
 凡あぐりぬせりと童子にいつり今我
 舞はは樂と保てり人の命ハわまも
 廿ぬりのされハ思ひの印ぬるま
 可とあともかまふ一まゆハ益有
 只味ハ志とけは今自をうりつる日
 わりと思ひとス一とそちあよ

又

世の中れえらるる心成りて
 をけきて親くゆへんころりよ
 今自このころりひて親よは
 けいハこのころりやきめらるる世

髪と
 志ま
 心
 女
 子



佛教は女人と指て外面の菩薩小僧心
 心夜叉の心と云也誓背つくり外と云
 うんまり内念と云ふは心なりと云ふ
 一交ぬく肩月くら 髪一さ女うへこもま
 ひつかかかなうさ 袴の代りも養とつこ
 さかくそ一且人の月入とつた子ん
 とつこさうー又さうさくつたあまらさ女ん
 けさおひさあつひ神めいーてん
 けさおひさあつひ神めいーてん
 為存の男の心よわんわんあれ元後ハ
 契ふくこのりくつらつら心定まうおま
 めもせつてつて海のおひさの心つと心ハ
 花の名こまりそれとあ人の心つらうか加
 こちのけつひおかこつとつて心つらとよ
 くけつひこつとつた心つらとつら

繪本傳記中



親の恩

友親の恩忘れよ 子にり方ハ
 父母にけりしと知り 父ハ天なり
 母ハ地 天も父に けりしなり

地なる母よ 身と別して 十月の娘よ

はせへと 赤子の泣き わづねぬ

あつちの母の 母の思 言はずも

よく知れど 言はずして 父の思

母よりすれ 言はずして 知れぬ

きずして 及毎へぬ 科どし

父ハ天光 言はずして 母ハ地光

又ハやすし 天ハさちふ わづねす

地ハさちよ わづねて 昔の母

いらちち 父の昔の くらわて

まをすれぬ 懐くも 子孫のため

業とあつて 悲病の母と わづねて

引まはし 引まはし くらわす

身抱まで 言はずして 氣わづね

先子とあつ 言はずして ね給ふ

子とあつて 言はずして 書の子

言はずして 言はずして 人の心

たのめも 人ねとあつ 親つとら

業ねぬ 世るへ 業の心

つららの 狗の心 たまひ

孝の道あり 志すべしハナリ

天ハんすかり父のうとをたなり

弟ハ地カして母のうとをた

天と地父母の介我ハなく

弟と父をバお孝とをた

塔庵

同或田舎小孝子のつり 甚

貧窮の人なりし 親をたふ

死せんとす時孝子(まご)いじ

り我死せば念は小わつく 葬

屋一葬礼小ぎやうに頼む

いひける孝子使くうけあひし

の山ありしとれわて 漸か

と世とさうりしとどの山と賣

親のやこれおとく小ぎやふ 葬

礼一我弟ハまのらと弟わて

かせんまじし 贈てかせん

の賣一山も賣りどしける

なり

石の親のごくうりし時と山と



もたなく何す〜賣りのなく

深才の孝子ありハ其時ハい

と人ハいふもわつく葬れハす

とつけ人ハ親と係ハふハされハバ

とて一掃ハの女ハ覚ハも出来ハれハを

あハこハるハたハりハいハせんハや

手ハ高先生ハ言ハ曰ハその時ハいふもハ姓

けわハ久ハ〜孝ハ〜と賣ハ〜し

わり我ハいそれと〜り〜葬れと

わつくハす〜〜り物ハといハい

我ハあり書ハわハバ書ハだけ〜り

その〜〜〜あハて合ハ〜

の書ハを〜れ〜ある人ハおハい

の〜〜〜けと〜うハ忠ハ申ハハ身ハも

火ハもけが〜おれハバ入ハ十日ハのハるハハ

水ハをぬと下ハされ〜後ハハ死ハ〜る

身を〜せい〜うハに成ハともハあハされ

水ハつら下ハす〜〜介ハおハ何ハもハを

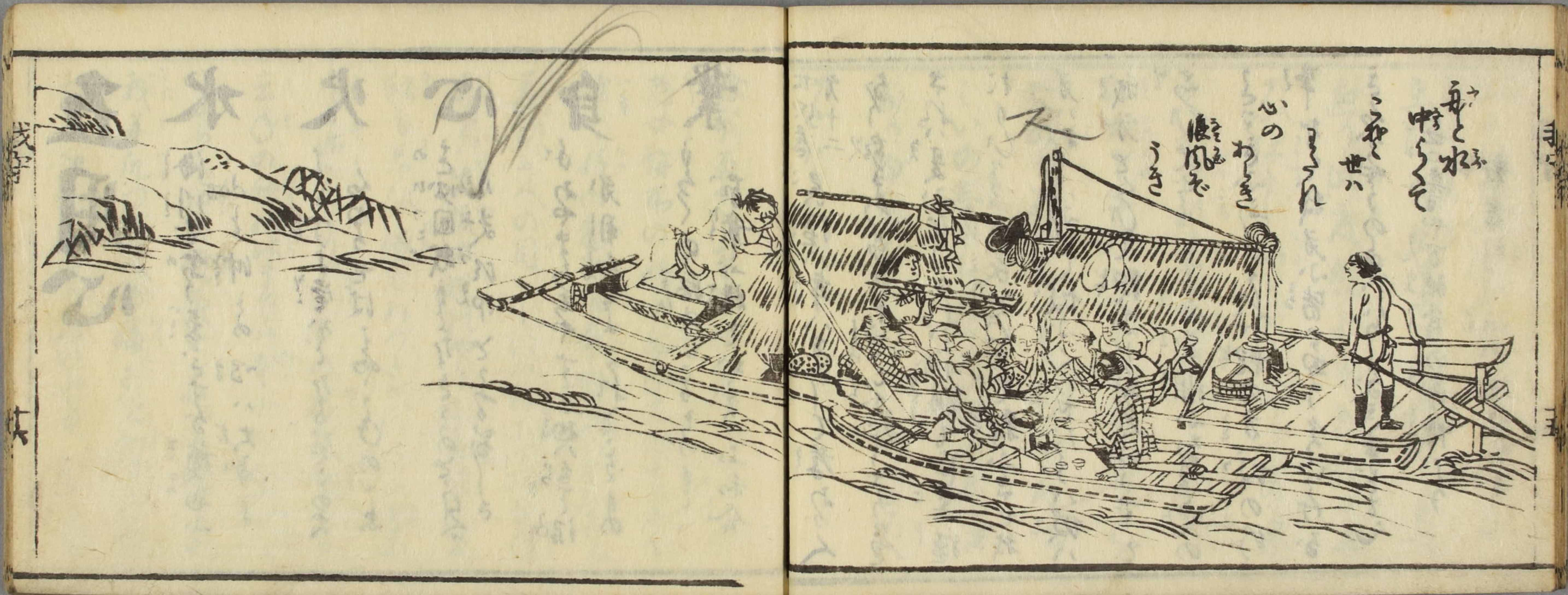
か〜〜〜は度ハの葬ハれハの入ハ用

だけ水ハが〜下ハされ〜いハい

浅字

けいじの入りけりけりけり
 おしとまご
 在所と生ませ洲原のこ
 けりけり度親お果養れふま
 不仕し何とぞつむしこの果
 けりけり口苦言をまも養れふ
 出下されけりところぢうを
 たのをわくべし是ころつ
 さいの志ざりわりけりあふ
 ありゆきとかねこけりせん
 うさけり

北田孝 呉種八年
 才十二 ありあまがちして
 されば夏ふなりなれば惟帳も
 たりいさる我衣をぬきて親ふ
 けりわいけりて故ふくせだ
 我方とくひて親ふとゆえか
 けりいさるして毎親探ふありて
 けりけりふしれが親の方
 事なく我方小皆さりたりけり
 けりけりけりけりけりけり
 無二書や万徳膏の勢特けり
 親孝けり何小はけても



舟

水

舟

水

舟中
水

舟中
水

舟中
水

舟中
水

舟

五用心

海川であらうきよき水を積むか
山と仲の喧い大なり

火

くすくすやうきやうきなる火の
ふりせばふりしもの

心

まごひつこが
心まじり中とふらふ

身

おやまらまやまらとむらむら
おろろろとふらふ

業

おろろの痛のいなるもの
おろろの痛のいなるもの

繪でぬえやと上嫁姑の如

老女嫁取の嫁お白ひて回すも

低も娘取初ハ唯幸抱が大なり

着ひお人の目うにハ私おつ娘が子

弟とバ中後の嫁れやうふもふらん

私も美い嫁であつとが。いほの男

や、姑おたりとるの娘を嫁が有。

去子の秋れはまをハおかりん小中

まらめて。迷小娘死とよ一ゆと。

我身死つて人の痛さと知るといハ

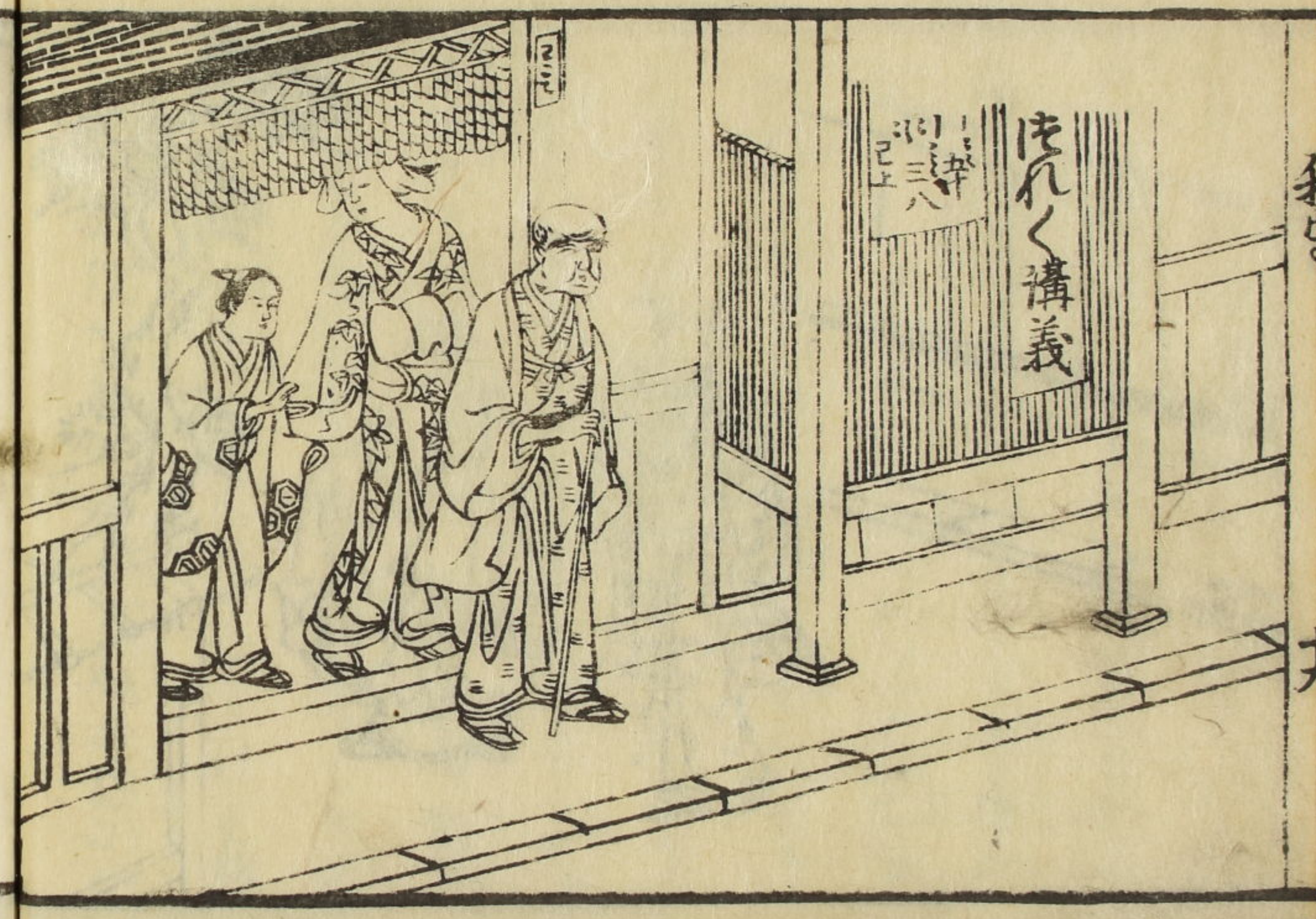
おれと初人れよあしゆをかまらぬ

我乃仇つく人の痛きとあはれさるる
 娘と子娘ふ嫁の巻の八掃が
 じやふれとも上つるさあやふん
 ちのふはるい事おんごつくの嫁
 娘運小仲のようぬもりの巻さふ
 嫁のさういふてくあはれさるる
 をかはたりふともあはれさるる
 ハはふくひのふとや。腹さる新ハ
 若かり物とやと流石小知りあも
 の巻と。子とあはれさるる
 お毎小娘思情なくかの事もあは

痛き。けて娘ぬやうふ成まるとも有
 べのまにりてあまか。何くあまハ
 ふるを底氣味さるあああつたがる
 やふいひ。者一ふ死さるるいさるる
 情むんる。已が死だる情さるる
 娘の巻死るのと約るるでさるるの
 向ふ根さるるあはれさるるさるる
 かのひささるる。能るるさるる又依平
 治とあやるといひ。仕持ひするさるる
 祈るるあはれさるる情けるあはれさるる
 情さるる。まぬ仲さるるよけさるる八掃

美くとおひい。ふハ天氣あまきも
 ちと世よ抱かかひおぐも世よあされと
 ぞひふえんをまはし。女房にようばうお
 氣きどしとさかんし。そつふ己おれと
 おいせしやうしげも。はひちりあめ
 におとがされども。巨こ煙ちおあや
 かなれしりば。や女房にようばうのいさして
 己おれはとぬさぬ。ひげも。痛いたりに付つき
 おつち。まのやまをさつらハかうりし。ひ
 秋あき去さ先ま生ま格かのぬありし。とうけし海
 けり。居いの隅すみとなく。足あしきハ暖あたたの内うちハ





何れも後のまのいはいよ何れも後と
 言ふも何れもいづれかあるいは何れも
 ひんよとと心いやはいやはい
 夏の竟たかやうふ今でいれよふ念は
 た男も女も後の乃とあうさきこと
 我もてまが方とくやいひのこえ
 まをと換ひます。嫁形とあらて
 いりく。いかにとけましてまがの
 まいといふる我がハゆんいさ
 ました今いひ合すをれハ。こはが
 姑母よさう。病かともしうなるハ

今更に申すは、あつちの嫁を傍
 ぐるのめしや、ちぬち入ておまを
 又、何角おほけて、いづいづと嫁り
 一、南無の徳は、いふや、名傑
 のさるまじく、とるり出て、傍
 やくは、姑おハ傍まして、おまを
 づつ、いづいづも、いづいづも、
 めを、孝け、その、役の、孝け、ハ、
 上、わ、あつち、ま、あつち、と、
 一人、わ、ま、い、あつち、
 か、あつち、人、お、い、あつち、と、あつち、嫁、の、あつち、

屋で、は、あつち、の、あつち、を、
 申の、よう、あつち、い、あつち、
 たり、あつち、あつち、の、あつち、
 一人、の、あつち、あつち、の、あつち、
 孝け、あつち、あつち、あつち、
 ひの、あつち、あつち、の、あつち、
 の、あつち、あつち、あつち、あつち、
 と、あつち、あつち、あつち、あつち、
 ハ、あつち、あつち、あつち、あつち、
 実の、あつち、あつち、あつち、あつち、
 志、あつち、あつち、あつち、あつち、

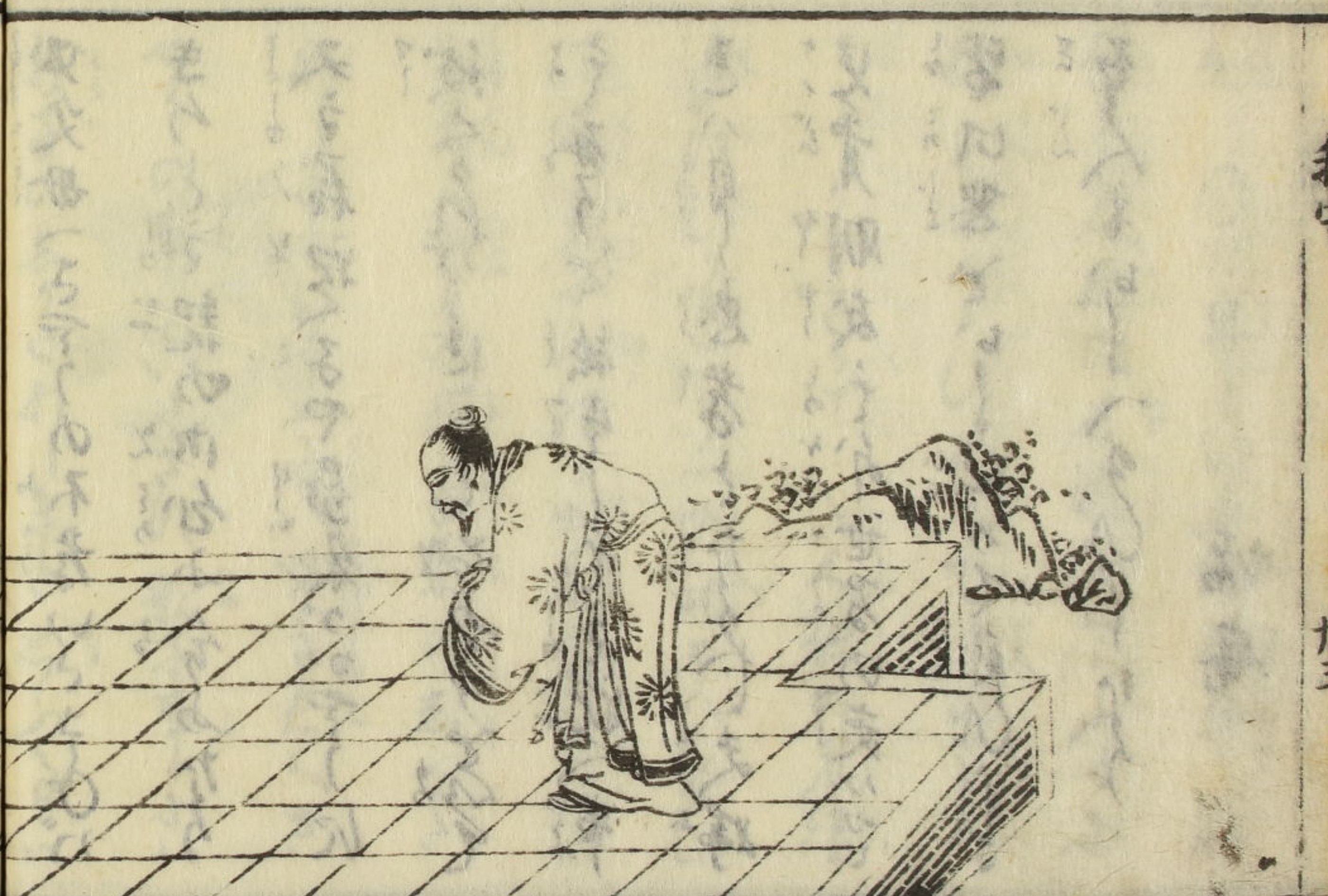
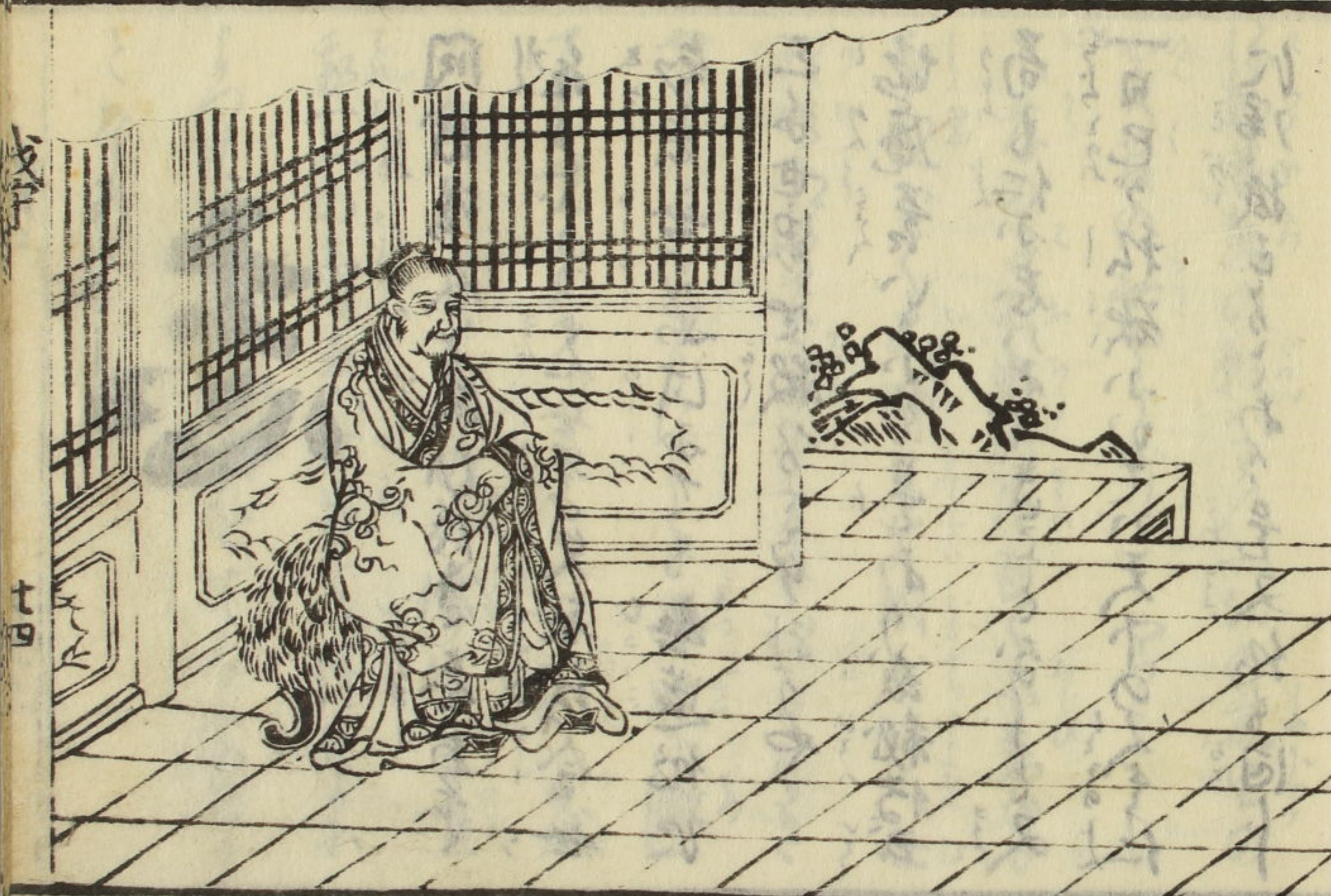
ハ悪病がりののちして。衣衾のよこ
 き垢づりのことば。恥ぢるのよこも
 急ども。け跡のよこまじり。お
 の垢付ことば。何の人のすくを。後
 うごちのよこぐり。きことば。もぢらと
 り。あて。朝々不撓。魔。清ふじひ
 た。けりわども。心のきこ。あぐ。さ
 きことば。恥しいことば。もぢぬや。に
 かまんとする。今それあり。後まじり
 身。あも
 我ん鏡ふらう。のあ。が
 さ。ぞや。さ。このよこふく。さ。じ

恕心

恕といふハ我天より受けたる
 直あり。なんよひ。きあて。その
 忠のあより。あひ。え。りて。いやと
 の。あ。る。の。人。も。い。や。あ。う。と。知
 て。ま。り。や。な。る。り。ハ。人。へ。あ。じ
 け。ぬ。り。な。り。故。ふ。先。を。知。と
 知。し。祿。が。あ。り。ぬ。あ。り。なん。と

知^しる^るの^のバ^バ忠^{ちゆう}と^とり^りの^の北^{きた}面^{めん}平^{へい}に
 か^かき^きの^のお^おの^の名^な姓^{せい}と^とら^らが^がる^るの^の
 根^ねが^がふ^ふく^くひ^ひり^りて^て末^{まつ}の^のこ^こら
 こ^こら^らの^のこ^こら^らの^のこ^こら^らの^のこ^こら^ら
 子^こに^にひ^ひこ^こして^{して}ふ^ふの^の北^{きた}り^りん^んく^くの^のひ
 て^て苦^く忍^{にん}ぶ^ぶの^の心^{しん}を^を出^です^する^る也^や
 之^{これ}君^{きみ}の^の事^{こと}も^も不^ふ孝^{こう}の^の志^し也^や
 あ^あの^の事^{こと}と^とり^りの^の必^{かならず}に^に思^{おも}は^はす^す
 や^やの^の事^{こと}と^とり^りの^の親^{おや}不^ふ孝^{こう}の^の事^{こと}も^も
 我^{われ}子^この^の志^しを^をわ^わき^きま^ます^すと^とら^らが^がる^る
 必^{かならず}に^に父母^{ふぼ}の^の不^ふ孝^{こう}の^の事^{こと}も^も
 ま^まり^りと^とり^りの^の親^{おや}の^の志^しを^をわ^わき^きま^ます^す
 又^{また}君^{きみ}の^の子^こも^も不^ふ孝^{こう}の^の事^{こと}も^も
 彼^{かれ}の^の志^しを^をわ^わき^きま^ます^すと^とら^らが^がる^る
 必^{かならず}に^に自^{みづか}ら^らの^の志^しを^をわ^わき^きま^ます^す
 兄^{あに}弟^{てい}の^の志^しを^をわ^わき^きま^ます^す
 皆^{みな}の^の志^しを^をわ^わき^きま^ます^す
 吾^{われ}人^{ひと}も^もわ^わき^きま^ます^す

塙庵



志

同我法人と救ひたき志あり
 利もどしも 志を承り 文を後令を
 知恵をいひおけても 無遺能に
 三の世と救ひたりありや
 地庵若いふも是なり 或秘傳云
 苟も仁不志ハわきまごとありと又
 一日已が私欲小してバ天下の人を仁
 に帰扱よるとあり 是又仏も回ド

弥勒菩薩の教はこれ一切の元生の
 貧苦のをやりかしてやうい
 不孝の子不忠の臣をく不義の
 主親をく 夫婦兄弟朋友法人を
 理難たきて 是もくろくむるなき
 やうにしてやりたりと 骨髓小徹
 てあるのみいひとや一心なり死
 の命をそがとものな 佛仏とも唯
 一人の志が 是も世と一併たりふ
 うつて 自ら小世とすうああり
 とあり

石行廣略實之於身

新實語教

萬善木本語之於口

父之取貴者慈也

子之取貴者孝也

君之取貴者仁也

臣之取貴者忠也

事師長貴乎禮也

交朋友貴乎信也

見老者敬之

見幼者愛之

有德者年雖下於

我々必尊之

不肖者年雖高於

我々必遠之

慎勿談人之短

切勿矜己之長

讎將以義解之

怨者以直報之

人有小過含容而忍之

兄之取貴者愛也

弟之取貴者敬也

夫之取貴者和也

婦之取貴者柔也

人有大過以理責之

勿以善小而為之

勿以惡小而為之

人有惡則掩之

人有善則揚之

處公無私讐

治家無私法

勿損人而利己

勿妬賢而嫉能

勿逞怒以報橫逆

勿非理以害物命

見不義之財勿取

戒子

遇合義之事則從

詩書不可不學

禮義不可不知

子孫不可不教

奴僕不可不恤

守我之分者理也

聽我之命者天也

人能如是天必相之

此乃日用常行之道

若衣服之於身體

若飲食之於口腹

不可一日無也可不謹哉

貧福の功効

福の神いよく

一 小 一切すかよ小て

二 小 にくもて慈悲ぬく

三 小 さうひあそんん

四 小 ぐあーままて

五 小 いつの人のうら

六 小 びりせんを理いよん

七 小 みるよくまぐえんハ

八 小 やうらうんーうり

九 小 子らや孫まぐて

十 小 ぬでさうさ

福を極とんさいか

堵庵

貧乏神のいよく

一 小 いちりきさのよて

二 小 若い教はさで

三 小 先づりどなりして



一ツ 歌がふりさう
 二ツ いつもたゞういで
 三ツ じごいず知らず
 四ツ なまけがひひか
 五ツ 肉がむさく
 六ツ 小玄のきりまふく
 七ツ さんと仕舞ふ
 八ツ 貪欲よを酒糸羽麻呂
 九ツ いのすも神やちん
 十ツ 虚白斎

朝倉新話 廿四目

東郭子曰。多く世上の人。欲と
 珍く。ハ商人ハ高賣ハ。あつた
 小ぶつ。船さ。やぶ。大まか
 誤り。で。ご。お。ハイ。それ。壁。で
 け。く。え。よ。な。彼。名。道。形。は
 通。ぶ。く。何。事。く。ト。され。ま。せ
 と。い。か。目。も。金。が。い。ぶ。く。の。柳。を。就
 裏。と。人。の。き。も。ぬ。程。を。伸
 つ。い。出。し。ま。して。我。が。新。ま。れ。が
 こ。も。茶。餅。と。こ。も。入。と。り。を

片が。それと回(か)る。ひで。い。は。い。は。い。
 皆(みな)人も。通(と)う。で。我(わ)が。是(こ)れ。が。か。
 ず。ま。じ。ぶ。こ。も。令(めい)も。殖(し)ま。も。お。し。
 命(いのち)が。易(やす)か。る。ゆ。で。ご。ざ。り。い。我(わ)が。
 ち。ま。く。と。一(いっ)切(せき)我(わ)手(て)です。る。や。
 ろ。う。て。片(か)が。が。味(あじ)好(この)の。を。
 そ。れ。い。我(わ)が。肩(かた)の。う。し。と。い。ま。の。
 だ。お。力(ちから)で。是(こ)れ。が。如(ごと)く。し。て。お。く。
 ま。の。で。ご。ざ。り。ど。い。の。さ。う。と。や。
 ご。ざ。り。ぬ。う。さ。う。と。や。と。い。う。も。
 お。力(ちから)で。ゆ。ぬ。ま。の。と。や。と。い。う。

て。精(せい)も。お。さん。と。ま。て。い。ゆ。ぬ。は。い。
 味(あじ)分(ぶん)精(せい)と。入(い)る。ゆ。は。い。と。は。は。ば。な。
 ら。ぬ。い。只(ただ)欲(よく)と。海(うみ)う。し。て。お。と。
 貪(いん)より。身(み)に。北(きた)乃(の)か。る。と。ま。れ。
 換(か)か。る。ゆ。は。い。止(と)ま。さ。が。音(ね)と。い。う。ゆ。で。
 ご。ざ。り。い。高(たか)貴(き)の。利(り)も。え。な。さ。い。
 行(い)く。と。地(ち)乃(の)と。い。ひ。し。ま。せ。ぬ。又。
 紀(き)州(しゅう)の。梳(く)屋(や)の。と。そ。と。や。と。い。の。
 じ。も。食(た)べ。が。ご。ざ。り。と。が。これ。は。ま。う。
 ち。と。と。ど。の。や。し。か。性(せい)貪(いん)ふ。云。
 ても。唯(ただ)と。い。う。て。忽(たちまち)あ。り。ま。う。と。

ハイそれでもみごと合あてを
が。却かへて皆人みなが憐あはれとしけ。後のちハ
文ぶんごごごでも糸いと織オリとや。杭
小こぢをすし。さ。みでござるハイ
も。賣うりもさ。毎まいうでござるて。歌うた
ん。と捨すてて出来ぬと。い。か。あ。い。こ
ご。ぬ。さ。る。べ。さ。程ほどの利りと。と。る。と
歌うたといひ。いま。せ。ぬ。織オリも。い。か。が
歌うたん。と。い。か。あ。て。い。こ。さ。ぬ。ぬ。
腹はらと。祿ろくさ。と。歌うたといひ。いま。せ。ぬ。
大おほ緊きん祿ろくさ。と。さ。程ほどの。さ。ハ。祿ろくさ。

ア。さ。が。好よひ。ハイ。織オリも。い。か。程ほどと
云いふ。さ。が。よ。ひ。ハイ。それ。も。わ。く。な。つ
め。つ。と。さ。ふ。人ひとの。祿ろくさ。と。さ。か。ど
祿ろくさ。い。で。も。大おほさ。さ。か。ひ。る。み。で
ご。ぎ。の。ハイ。又また減へ法ほう安あんか。か。け。を。と
い。か。あ。て。利りは。か。と。と。で。も。ご。ぎ。い
ぬ。ば。人ひと歌うたと。捨すてて。見みま。さ。と。ア。や。
身み一ひと歌うたといひ。さ。の。が。か。ひ。や。さ。ふ
か。ア。ア。ア。す。我われが。か。ひ。い。内うち人ひと家いえ男おとこと
巻まい。ハ。あ。ま。せ。ぬ。我われ身みと。巻まを。た
小こま。つ。て。自じ然ぜんと。家いえ業わざ小こす。

精かすハでさうぬハイもあつ
家業小精かすハ人男と榮耀
業あひむ。持ままハござぬ男と
榮耀業む小。持まぬふふりて。
殖うちハあませぬも。あづも
殖うちハ殖える。乃のれでござるハイ
元來男の歌うた。なひふふつと。
大合大酒おほいしぞ。男持もと惣もせ
やうハござぬ。そのあつ養やしなせが
よひハ人壽命じんじゆめいハ定さだまるとあつ
福ふくども。たのつとさうなりませ。

ハイね又男と老わらせぬふふつと。
家持かもちちびく。あひ。持もちつと
がなひハ人。家内けい内でハ人老わらひふ
そ理ことわりもござぬ。世よろ人出でてハ
人夫ひと夫む小。持もぬたつなひハイ
トとやふらつて。家内けい内でも世間
でも誰たれが惣もまふやうがござぬ
先までハ持もちぢけトとやふ。
よつてよめやうか。びつとおひあ
親おやでも微笑わらせぬ人ひとハござる
まひ。持もちて世間かみ並なみの子こは

大切不^{おぼ}考^りた^りた^りお^お親^{おや}な^りり^り於^こて
 悦^{よろこ}び^こや^きい^だが^なひ
 ませ^うれ^この^毎り^でご^ぶり^て
 人^{ひと}歌^{うた}と^あい^まは^らせ^りげ^た
 ござ^らい^はを^あん^を先^ま
 我^わが^なん^と知^し縁^{ゆかり}な^らぬ^り
 で^ごぶ^り我^わが^なん^と知^して^え
 ま^すま^しや^あら^まの^いご^さ
 ら^ぬ我^わと^いや^のが^なひ^い
 よ^めと^あい^まは^らせ^りや^らん^が
 ござ^らぬ^い我^わと^あい^まは^らせ^りて^あ

介^か介^か何^{なに}が^か歌^{うた}が^か起^{おこ}り^ます^か
 今^{いま}の^よめ^はあ^らま^のい^ご
 け^でご^ぶり^いや^らん^と
 皆^{みな}が^なん^と知^して^あら^ま
 い^やら^んで^ごぶ^りあ^らま^の
 中^{なか}に^あら^まの^いご^さ
 して^あら^まの^いご^さ
 ま^いに^あら^まの^いご^さ
 感^{かん}歎^{たん}作^さ礼^{らい}し^て

研之程集巻

天明四歲辰乃春

恭敬舍藏板

書林

江戸日本橋南二丁目

須原屋茂兵衛

大塚新橋通安堂寺町

秋田屋太右門

江戸横山町三丁目

和泉屋金石衛門

元やくしき
丹毒療治相傳

丹毒療治相傳由来

信聞丹毒といふ病症ハ小児の身
て大病と云ふんまけや疾よ予
或守田舎に在丹毒療治の形
傳定せり云ふといふと時なく
むちやく年月と送り候ふる予
比予ガ小児七才の秋家小發病
いづれに腹の腹の腹中ハ石の
ことく小して苦患甚しく居るよ
志のぞん予速醫師とまふ録きに
醫師見て是ハ必丹毒と云ふ予
カ小阿ハバズといふと去一匙と
與えんとて此薬と用也といふと
又小功なくまうく痛治せざる
其時予急て傳受智一法成

思ひき右の療治と執り治ひたふ
かどふく後痛治りそれより一
半付斗ふ本候す其時ハ死せると不
再びを治せしむせ又今年宵の
比予クニ男六才あり一との右同様
發病一これハ是例のそやくさふんと
察し右の療治と施し試みせ候
平愈せり其後あまこの醫師よ
丹毒のこと候尋ふ人けんとお
出合とて營業比カ小及び一
返と治りぬ世百よけ病とて命成
失小小兒を救と志し候人人の
親のふ誠ふ切ありと薬してハ
け術の明くふ功ありと人ふと慶
志しせ命と救たく思ふやうし其

功と記はるるを御覧せしむるに安くも功立て
速に驗あり古昔石中玉妙にかなる
妙術と家秘して世に傳はれせざるを
歎く一々秘人の笑と顧みずんこと
愚輩の傳受を望む人あるは傳を
何とて記し記しはるるに若人々乃
つよ叶ひ用ひ給り予が秘しは
せんとのなり

丹毒見立并療治方

丹毒の病疔は此相類するもの
元初は右の耳及び頬乃色赤く
又赤黒く成るとありそれより咽喉
むけ其相類するもの或は腹痛するも
何れ或は吐瀉と矢ふるや或は有
腹痛するは後にくたると石の如く

又後やうらうらして腹熱するもあり
是の病の程は急なるありは病の候り
急病一急に急に九餘病も突おして
耳及び頬の色と成ると丹毒第一乃
足立と成るとよくと成ると右の
相類も丹毒も是ありは左右の
腕のうち臂の折れみと肩やこれ
其申子と成ると成ると成るといふ
正とくと成ると成ると成るといふ
療治の法は急に血を引き去る
血を引き去るに口には宛血を引き去る
の生かむと朝と成ると成るといふ
丹毒は右に療治して成ると成るといふ
丹毒は急に治すは事神妙なり
十四經手之太陰肺經に屬するは

雲門尺澤の問答白雲の國の妙
内子高き鳴呼宜あふふは佛の
妙なる事月ひてかゝる

但やくこの附子達たのまゝとてふ
おちる事うはひをいふはたか
まうとておられふれは十とて
みも有へとの附子のあつて
かゝるよりよそ女とて切す
べし

江州大津扇屋廟

相傳 湖南亭

右圖所弄亭早くとたたし名
好む小ねれと人い法の能ひ
常陸高漢

今泉舎と助為公事成長也

玉巖堂藏梓略目錄

悟窓漫筆

錦城太田先生著 全六冊
畏天知命畏聖

先生平日隨筆各記の書あり古今活記乃
本系と推し風俗汚墮の係るを編
博く經傳子史とておとと証し又学術
の雅心と辨し天人の秘蘊と漏さる
天下習用の珍編なり

梧坡教諭

錦城先生附言 全二冊
堯民先生著

世教勅戒の意とまゝて旁ら致す古書
とて証しおとと梧窓漫筆分類
又か捷徑と開きうる珍書なり

野総茗話

常盤潭北著 全五冊

い書おら君臣父子夫婦の礼法より
の教訓と旨とて隨筆記録未の事
あつて林儒伝の大徳と痛くなき儒者
の如法とをたやへ知る妙書と云べし

朱子家訓經典餘師 齊田先生述 全一冊

此書、南宋の名儒朱子先生平生の道徳を傳へたる家訓の中、最も最上の書也。其の理と述らば、家訓と傳家と齊る。最も最上の書也。今日、字と以て審み、和訳したる、士農工商の、是と漢と、また、理と會澤、一家と守る、子孫、長久の基と、なるべし。

農家調寶記 高井蘭山著 全三冊

けい、天地開け、耕作せし、由來、して、田疇、の、勤、方、化、相、立、極、地、方、檢、地、年、貢、収、納、善、用、子、孫、の、法、統、又、徳、方、男、女、婚、礼、の、成、述、漢、字、化、世、著、之、

同附録 一名除蝗録 全一冊

同續録 一名豊稼録 全一冊

農家用文章大全 高井蘭山著 全一冊

けい、ハ、文章と、言、ふ、今日、極、少、き、耕、作、農、具、村、向、耕、作、の、必、要、用、の、文、字、以、撰、集、し、六、紙、帖、と、加、へ、し、農、家、育、利、第一、の、書、なり

増補 年中用文大成 御家臨泉堂先生筆 全一冊

けい、書、児童と、い、ふ、も、耐、摩、小、童、文、の、お、ま、け、工、風、と、申、綴、り、も、形、體、又、月、の、長、名、未、近、加、丁、教、二、百、枚、お、ま、り、思、ひ、大、字、少、書、し、な、ま、は、多、年、向、極、大、冊、用、文、素、の、隨、一、なり

増補 紅梅用文章 同筆 全一冊

けい、書、御家臨泉堂先生の揮毫、申、し、て、第一、児童、書、堂、の、多、本、お、ま、り、年、中、雜、用、の、文、字、并、體、又、お、ま、り、及、ぶ、は、文、素、去、法、長、名、お、ま、り、と、言、ふ、書、き、り、大、人、小、兒、婦、人、お、ま、り、と、言、ふ、一、冊、と、候、へ、な、ま、り、家、訓、調、寶、と、同、じ、なり

塵劫記 十露堂獨樹長 山本二三著 全一冊

けい、書、算、術、の、工、巧、を、獨、樹、長、と、號、し、ハ、師、匠、の、お、ま、り、と、言、ふ、長、の、出、立、も、極、少、の、中、に、算、術、の、見、一、冊、并、算、法、高、臺、の、割、田、地、方、の、割、り、外、算、乃、の、り、よ、於、て、ハ、算、よ、妙、用、と、言、ふ、なり

書物 屋 江戸兩國横山町三丁目 和泉屋金右衛門

